



タニシは何を食べているの

やわらかい「も」などを食べる

タニシは、底にどろがたまっていて水が流れているみぞ、池や田んぼ、ぬまなどでよく見られる、小さい巻き貝です。日本には、5種類ぐらいいて、大きい種類のものでは、殻の長さが6センチメートルぐらいもあります。

長い間、水の中にある石や木の根、みぞの側面などは、さわるとぬるぬるしていて、よく見ると表面に、緑色やかっ色の「も」がついています。キンギョなどを飼っていると、水そうのガラスの内側が、だんだん黄緑色になってきますね。日光がよくあたる所に置いた水そうなどは、この黄緑色のものがよくふえます。これらは、ソウ類とよばれる「も」の仲間です。

タニシは、おもに、この「も」などを食べています。ですから、キンギョを飼うとき、タニシも水そうに入れておくと、水そうのそうじをしてくれます。

飼うときのえさ

タニシを飼うときは、キャベツやホウレンソウなどを、ゆでてやわらかくし、細かくきざんであたえます。ときどき、動物性の食べ物である、にぼしやミミズなども細かくきざんであたえましょう。

タニシの殻も成長して大きくなっていきますから、カルシウムが必要です。死んでしまったタニシの殻や貝殻などを、水そうにいっしょに入れておきましょう。カルシウムが足りなくなると、仲間のタニシの殻をなめて食べるため、殻が傷だらけになってしまうことがあります。（監修・安部 義孝）

